



2026年4月 学校給食支援活動報告

<今月のインパクト>

▶学校給食

- ・提供給食数:204,193食
- ・支援対象児童数:20,553人

▶主な成果

- ・Career Dayを通じた子どもたちの職業理解機会の拡充
- ・地域ボランティア主体による給食運営の継続
- ・給食提供を通じた登校意欲と生活習慣の維持
- ・外部支援者・学校との連携強化

▶主な課題

- ・安全な水へのアクセス不足
- ・給食準備時の水確保に伴う負担
- ・一部地域における出席率の低下

<今月の変化>

・Career Dayを通じた学びの機会



マザー・テレサカトリック幼稚園主催のキャリア・デーが開催され、Seibo支援先の各校も参加しました。子どもたちはさまざまな職業に触れ、外部参加者との交流を通じて将来の仕事について学ぶ機会を得ました。

職業に関する体験活動や発表への参加を通じ、子どもたちが自分の興味や可能性を考える様子が見られました。本イベントは、学習意欲や社会性の向上にもつながっています。

・地域主体による給食運営の継続

各CBCCでは、地域ボランティアを中心とした給食運営が継続されています。保護者や地域住民が調理や施設運営に参加することで、地域全体で子どもたちを支える体制が維持されています。

・給食が子どもたちの生活を支える役割

給食は、子どもたちにとって重要な栄養源となっています。安定した食事提供により、登校意欲の維持や学習環境の安定につながっています。

・水資源に関する継続課題

一部施設では、安全な水へのアクセス不足が継続的な課題となっています。給食調理や衛生管理に必要な水の確保には依然として大きな負担があり、生活環境や健康面への影響も懸念されています。

<現場の事例>

1. Chisomo CBCC

地域協力による給食運営



山田理事長がChisomo CBCCを訪問し、保護者ボランティアによる給食調理の様子を視察しました。現地では、マラウイの伝統的なお粥「Likuni Phala」の調理が日常的に行われています。

保護者との対話を通じて、給食準備に必要な労力や、地域主体で運営を支えている実態が共有されました。地域コミュニティによる協力体制は、継続的な給食支援を支える重要な要素となっています。

2. Chisomo CBCC

水資源へのアクセス課題

訪問時には、水源の状況についても確認が行われました。施設では、安全な水の確保が難しく、日常的な給食準備や衛生管理に影響が出ています。

現場では限られた環境の中で工夫しながら運営が続けられており、水環境改善の必要性が改めて確認されました。

3. Makwika Nursery School

給食支援と家庭への影響

Makwika保育園では、給食調理を担当するボランティアが施設運営を支えています。給食支援によって、子どもたちは栄養ある食事を継続的に受けることができます。

また、ボランティアとして働く保護者自身も収入を得ることで、子どもの教育費負担につながっています。給食支援は、子どもたちだけでなく家庭全体の生活安定にも影響を与えています。

4. Makwika Nursery School

外部支援との連携



マクウィカ(Makwika)保育園では、MACOSY Projectによる継続支援が行われています。現場では、給食支援を通じて子どもたちの健康維持や学習環境の安定につながっていることが共有されました。

外部支援者との連携は、地域施設の継続運営において重要な役割を果たしています。

5. Mlambe CBCC

学校間連携による支援



Mlambe CBCCでは、福島県立福島南高等学校との連携による支援が継続されています。

「1杯のコーヒーが約25食分の給食につながる」取り組みを通じて、国境を越えた学生同士の支援関係が構築されています。現地では、継続的な給食提供が子どもたちの生活を支える重要な要素となっています。

6. Mlambe CBCC

給食を通じた交流





山田理事長は、子どもたちとともに「Likuni Phala」を試食しました。実際に給食を体験することで、現地の食文化や給食の役割について理解を深める機会となりました。

現場では、子どもたちが安心した環境の中で食事を取り、日常生活を送る様子が確認されました。

7. Mpotola CBCC

給食による生活支援



Mpotola CBCCでは、給食提供によって子どもたちの健康維持や登校継続が支えられています。

給食は地域コミュニティにとっても重要な役割を果たしており、子どもたちが安定して学べる環境づくりにつながっています。

<学校給食環境整備に向けた新たな取り組み>



内藤大使がムジンバ県の小学校における給食調理場建設プロジェクトの起工式に出席しました。式典には、ムベルワ郡評議会の郡長であるエマニュエル・ブルクトゥ氏も出席しました。

今年初め、日本大使館とSeibo Maria Malawiは、草の根・人間の安全保障無償資金協力のもと、マチェレチエタ小学校、チャベレ小学校、カニエレレ小学校の給食調理場建設を支援するための贈与契約を締結しました。

内藤大使は挨拶の中で、これらの調理場が子どもたちに毎日温かい食事を提供し、元気に学び続けながら学校に通う助けとなることへの期待を述べました。また、マラウイの子どもたちの未来を支えるため、地域社会が一丸となって取り組むことの重要性を呼びかけました。

私たちは今、単に給食調理場を建設しているのではなく、次世代のためのより明るい未来を築いています。

給食支援データ(4月)



男女比

男子10,003人／女子10,550人

→ 男女ともに大きな偏りなく支援が継続されている

<今後の支援の方向性>

- ・安全な水の確保および衛生環境改善
- ・地域主体による給食運営体制の継続支援
- ・給食を通じた登校・学習支援の強化
- ・外部学校・支援者との連携拡大
- ・子どもたちの生活環境改善に向けた継続的なモニタリング